



▲4月19日に定期総会が開かれました▲

コロナ禍の中でも「安く・楽しく・安全に」！

4月19日、大町勤労者山の会第56回定期総会は15名の参加で開催され2021年度の活動のまとめと2022年度の活動方針・財政方針及び新体制を決定し終了しました。

総会では主に 1、会の組織実態…高齢化が進んでおり、若者の獲得が急務である 2、山行について…個人山行でも会員に声を掛け、コロナ禍でも対策を取りながら 3、例会について…オンラインでも出来るように 4、機関紙誌、ホームページ…電子媒体は活動を広げる有効な手段なので活用したい 5、各専門部活動について…全員で協力し合いながらの活動 6、事故・アクシデントについて…2年連続で転倒による骨折事故が発生している。積極的に教育・学習・訓練を受け、会でも取り組む。ココヘリへの加入促進。
○財政方針について…22年度の会費を800円/月から500円/月とする。会独自に積み立ててある特別会計（遭対基金）の使い方について次期総会までに方針を決める。
○その他として…Zoomを使った会議、スマホの地図アプリの使い方、等デジタルの活用を進める事

22年度の体制は、機関紙部を原山さんと細田さんが。会計監査に尾形さんと北澤さんが務める事になりました。

22年度も全員参加で「安く・楽しく・安全な登山」を続け楽しみましょう。

会長 谷口伸二

▲山行報告▲

▲2022/03/24-25

蓮華温泉 BC ツアー 梅池 in 木地屋 out

参加者：五十畑さんと

山スキー学校の同期の方々2名+原山

報告・・・原山

五十畑さんが山スキー学校同期の方々と毎年実



施されている蓮華温泉ツアーに同行させていただきました。今冬に初めて BC スキーを揃え、前月のヤナバスキー場に続いて 2 度目の BC に内心はドキドキ。

DAY1 梅池高原 Gondola 8:30＝自然園…天狗原…振り子沢…蓮華温泉（泊）

ゴンドラ、ロープウェイを乗り継いで梅池最上部へ。各々のピーコンをチェックしてまずは天狗原をめざして登ります。

五十畑さんを先頭にペースを確認しながらのハイクアップ。暖かい日差しと無風の好条件も、登坂が続くほどに汗を呼び、4 人ともあつという間にジャケットを脱ぐことに。南側に残っていた雲も抜け、白馬岳、小蓮華岳、白馬乗鞍岳の稜線を眺めながら進みました。白銀の絶景を染み込ませるように、ゆっくりと、じっくりと。

何度もこの場を訪れている五十畑さんの話では、こんなに穏やかな天狗原は滅多にないとのこと。誰か、ラッキーボーイかガールがいましたね。天狗原からは振り子沢を経て蓮華温泉へ向かって滑り降りました。深い雪に何度か足を取られて転倒するも、それも楽しい。この道のりがずっと続いてくれたらいいのにといいながら、気がつけば蓮華温泉手前の橋に着き、ほぼ予定の時間通りに到着。温泉♪温泉♪野天風呂～と意気揚々でしたが、今季は雪が多く野天風呂はまだ掘り出せていないとのこと。内湯のみの利用となりましたが、緊張もほぐれ、大満足でくつろぎました。今季、コロナ対策によって蓮華温泉での宿泊は 1 グループ 1 部屋、1 泊 2 食で 14,000 円。。。高い。けれど、個室でのんびりできる贅沢なおもてなしでした。

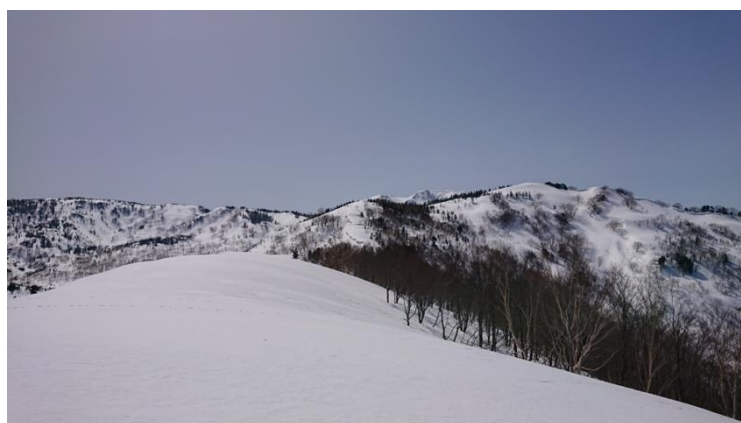
スキーに疲れ、温泉にほぐれ、おいしい晩ごはんを満たされて、「いつでも寝られるように布団だけ敷いておきましょう」と言って敷いた途端に全滅でした。即落ち。熟睡。



DAY2 蓮華温泉 7:30…ヤッホー平…角小屋峠…白池…14:00 木地屋＝平岩＝柵池高原

朝は7:00過ぎに出発。木地屋までの長いトラバスでした。小屋を出発して少し引き返し、木地屋方面への分岐まで戻ってから沢を降り、登り返し、ヤッホー平、柵平を経て角小屋峠まで登っていきます。時折、振り返ったときに見えた朝日、雪倉の美しさは圧巻でした。何度も足が止まってしまいます。ときに滑り、ときに登りと繰り返しながら角小屋峠を越えたところでランチ。暖かい日を受けながらゆったりでした。

その後は白池を経て、林道に沿って一路木地屋へ。概ね計画通りの時間に下山することができました。柵池高原スキー場の駐車場に帰ってきて解散。大満足の2日間でした。



2022/04/22-24 立山周辺(山スキー)

報告・・・よこた

4/22 晴

5:10 出発→6:00 扇沢 7:30 発→8:45 着室堂→9:30 みくりが池温泉 10:30 発→11:10 国見岳→13:20 一の越→14:50 雄山山頂 13:10 発→13:30 みくりが池温泉

4/23 曇

ガス 9:00 発→10:00 室堂山→10:30 立山バスターミナル(雪の大谷)、室堂山

4/24 曇

6:50 出発→7:30 浄土山コル→8:30 一の越→10:30 立山バスターミナル

毎年恒例の立山に行ってきた。1週間前より天気予報を気にしてアルペンルート開通直後を避けて次週にしたのだが、結局裏切られてしまった。

4/22(初日)、平日だからか扇沢は混雑もなく、駐車場も余裕で停められた。富山・長野近郊の県民は6600円で往復できる。これを利用した。みくりが池温泉は労山カードを見せれば10%



引である。これくらいしか労山カードの利用したことがなく、また、4年前まで JAF に加入していればアルペンルートが 10%引であった。立山には 4 月・11 月と良く行っていたのでこのサービスが無くなったのは少し痛い。



扇沢からの出発時刻には雨も上がった。室堂についた頃には雲海になっており、快晴で見晴らしがよく、感動した。初めて国見岳に登り、そこから槍ヶ岳を見た。北アルプスの薬師岳・黒部五郎の稜線がよく見えた。ここから一旦室堂平まで滑り、雄山までもう一登りする。一ノ越からは風が強く、いつ行っても風速 5m~8m 程度の風速がある。雄山頂上までは流石に 3000m 級であるので社務所が見えるのに中々距離が縮まらず、ひどくしんどい。しっかり一ノ越から 1 時間 15 分程度掛かった。



頂上からの眺望は 360° 素晴らしく、後立山から乗鞍岳、大日から剣と雲海上に見渡せた。社務所裏からの滑走は雪が緩んで所々ストップスノーだったが、気持ちよくみくりが池温泉まで 20 分程度の時間で到着した。今日はとても気分の良い一日だった。



4/23(2 日目)、今日は曇り。7:00 に出発したが、10 分後 10m くらいしか先が見ないほどガスが出て、温泉に戻る。雪の大谷を見るしかなかった。行くついでに室堂山を一本滑り、立山ターミナルまでの距離でさえも竹ポール頼りに進むことしかできないくらいガスっていた。温泉にも歩いて板を担いで竹ポール頼りに戻るしかなかった。14:30 に昼寝から起きて室堂山へもう 1 本滑りに行った。

4/24(3 日目)、天気は曇りだが、気温が低く雪が固い。なんとなく今日も無理そう。今日は龍王岳からの滑走を考えていたので行けるところ(コル)まで行ってみた。影になっているところも日が当たっているところも総じて雪が固く、ストックの石突が刺さるので滑走できはしたが、ガリガリでちっとも楽しくない。東一ノ越からの滑走は急斜面のため、ガリガリでは縦筋の入った斜面を滑走する事に躊躇した。立山ターミナルまで引返し、下山した。立山は何度行っても、良い天気は続かない。天気予報を当てにして来てるが温泉三昧で終わってしまう。もうそろそろ止めてもいいかな。

・ヒヤリハット : 特になし。

国見岳の最後の上りでスキーヤーがシールを付けたまま登っていたが、いくら経っても山頂に現れなかった。(自分はアイゼン付けて登った)

2022/04/24 八方尾根

報告・・・白馬の山人

ゴールデンウィーク最後の8日までは、八方・五竜・柵池の各スキー場はゴンドラが動いているので、終了までにどこの山に行こうかと迷ったが、五竜は今シーズン1日だけスキーで滑っているし、柵池は6月でもいいかなということで、八方尾根を選んだ。ゴンドラとリフト往復で3800円とのこと。それならスキー1日券(4500円)がオンラインで半額になるから、前日にそちらを選んで予約した。

予報では土曜より日曜の天気良さそうだったので、スキー客が多い日曜日をあえて選んで久しぶりに残雪の唐松岳を目指した。(月曜日がベスト予報だったが、他の予定があった。結果、日曜は終日曇り、月曜日は快晴)

7:35頃、チケット売り場に着いた。案の定というか予想以上にゴンドラの始発を待つスキーヤーが長蛇の列。乗れたのは8時過ぎ。

二つのリフトを乗り継いで八方池山荘8:30。八方池上部の第3ケルンに10時30分。普通なら1時間あれば十分行けるのに、体力がついていかない。こんなはずではなかったと思っても仕方がない。計画書では「行けるところまで」と書いたが、できれば落葉松の小屋まで行けたらいいなあというくらいの気持ちだった。

「下の樺」を過ぎると急な登りが続く。急ごうとしたらなおさら体に無理が出るのでマイペースで進むと、他の登山者に次々と追い越される。丸山に着いたのは、ちょうど12時。このペースでは小屋まで行けたとしても、下山のリフト・ゴンドラには間に合わない。あっさりここまでと観念して、ランチに切り替える。

驚いたのは、自分の体力低下だけではなく、残雪の少なさだった。4月に入って家の周りの雪解けが早かったが、3月初めまでのもうやめてくれと言いたかった豪雪を見てきただけに、山の雪がこんなに消えているとは信じられなかった。

なにせトイレがある第2ケルンまでの木道はかなり出ているし、八方池はもちろん雪の中だが、池までの尾根にはほとんど雪がない。

びっくりしたのは、池より少し行ったところの「下の樺」あたりは少ない雪が汚く、水



をつくれる状態ではないから幕営は厳しい。以前2回ほど丸山までシールで登って滑ったことがあるが、雪はつながっていないから八方池山荘まで滑られない。残雪期に何度か八方尾根を上がっているが、こんなことは初めてだ。



ちょうど午後3時前八方池山荘に到着。クワッドリフトの最終が3:30なので余裕。ピッケルはもちろんだがアイゼンも使わなかった。これからの山行をどうするか、自問自答する。八方池山荘から丸山まで3時間半かかり、下山に2時間を要したことになる。ヤママップの記録で見ると登りの速度は平均72%程度、下りはほぼ100%。下山の池を過ぎてから足のけいれんが少し始まったので薬を飲む。標準コースタイムでは、山荘から唐松の小屋まで3時間半で、休憩を含めても4時間あれば十分だし、以前の自分もそうだったのだ。

帰りは八方池山荘までは、幸い足の痛みは小さかった。時間に余裕がなく、痛みが強くて何倍もかかり、リフトに間に合わなくなることを考えれば、今後慎重にならざるを得ない。

今回は、帰宅してから強烈に痛くなり、少しずつ弱まりながら4日も続いた。

▲編集後記▲

今年度より、原山が機関紙の編集を担当することとなりました。細田さんから皆さまの原稿が届くのをいつも楽しみにしています。自分の山行でたくさん真似すると思います。発行のタイミングはどうしても不規則になってしまいますが、ご容赦ください。今後ともよろしく願います。